

平安京左京三条三坊十町

(押小路殿跡)

発掘調査現地説明会資料

2002年3月9日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京三条三坊十町 (押小路殿跡)

場 所 京都市中京区両替町通御池上る金吹町451番地

調査期間 2001年11月1日から現在継続中

調査面積 約460㎡

調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

1. 調査の経過

今回の調査は、京都労働局庁舎の建て替え工事に伴う発掘調査です。調査は昨年10月に重機による掘削を行った後、11月から開始しました。江戸時代・安土桃山時代の調査を終え、現在は室町時代の遺跡を調査中です。

2. 調査地周辺の歴史

平安京が造られる前、調査地周辺には烏丸御池遺跡がありました。烏丸御池遺跡は縄文時代晩期から飛鳥時代にかけての集落跡で、近隣の調査では竪穴住居や流路などが見つかっています。

平安時代、調査地は平安京の一部でした。北側をおしこうじ押小路（現在の押小路通）・西側をむらまちこうじ室町小路（現在の室町通）・南側をさんじょうぼうもんこうじ三条坊門小路（現在の御池通）・東側をからすまこうじ烏丸小路（現在の烏丸通）に囲まれたこの区画は、当事の地名表記の方法では左京三条三坊十町にあたります。この地には平安時代中期にはようめいもんいん陽明門院禎子内親王（後朱雀天皇皇后）の邸宅、平安時代後期にはふじわらののりみつ藤原範光の邸宅、鎌倉時代にはごすざくてんのう後鳥羽上皇の御所の一つのおしこうじ押小路殿があったことが文献に記されています。

承久の乱で後鳥羽上皇が隠岐に流された後、この地は九条（藤原）道家のものとなり、それ以降、室町時代の終わりまで摂関家の二条家本邸=にじょうどの二条殿として受け継がれました。二条殿は邸内に造られた庭園が有名で、庭園の池は「りゅうやく龍躍池」と名付けられていました。この庭園には皇族や将軍がたびたび訪れたことが記録に残されており、当事の京都の景観を描いた『らくちゅうらくがいずびょうぶ洛中洛外図屏風』にも、その様子が描かれています。

安土桃山時代には、おだのぶなが織田信長が二条家を立ち退かせ自らの屋敷としましたが、3年後にはおおぎまちてんのう正親町天皇の皇子・さねひとしんのう誠仁親王に献上しています。本能寺の変の時には、この地で信長の息子・おだのぶただ織田信忠が自刃しました。押小路殿・二条殿の歴史はここに終わります。

さらに江戸時代には、徳川幕府の管理の下に金貨や銀貨を製作するきんざ金座・ぎんざ銀座が設け

られ、両替町通りに沿って有力な商人が集まりました。

現在、調査地のある場所は金吹町きんぶきちょうといいますが、この町名は銀座・銀座にちなんだものです。また、近隣には二条殿町にじょうでんちょう・龍池町たついけちょう・御池之町おいけのちょうがあり、これらは二条殿に関連する町名です。調査地の向かい側にある龍池小学校の名前も二条殿の庭園の「龍躍池」から名付けられました。

3. 発見した遺構

重機掘削の結果、今の地表下約1.6～2.4mの深さで江戸時代の遺跡が良く残っていることが明らかとなりました。主な遺構を次に紹介します。

第1面の調査 江戸時代前期（約400～300年前）の遺跡です。調査区東部は比較的浅いのにに対して、西部は約80cmの段差で落ち込んでいました。東部では柱穴や井戸が見つかったので建物があつたことが分かりました。西部では土蔵どぞうが見つかりました。土蔵は東西約11m・南北約7mの大きさを、壁に当たる部分を「口」字形に掘り下げ、ひとかかえ以上もある大きな石と土を交互に積み重ねて基礎工事を行っていました。

第2面の調査 安土桃山時代（約430～400年前）の遺跡です。調査区東部が高く、西部が低い地形はこの時代も同じです。東部はほとんど遺構がありませんでした。これに対して西部では、ひとかかえ以上もある大きな石を積んだ石垣が複雑に組み合わさった状態で見つかりました。石垣の裏側には握りこぶし程の石が詰めてあり、きめの細かい粘土を積み上げた部分もありました。また、北西隅と南西隅では、石垣内側に地下式収納施設（地下蔵）が見つかりました。

第3面の調査 現在調査中の室町時代（約700～430年前）の遺跡です。庭石が据えられていること、東部から西部に向かって傾斜した整地が行われていること、西部の低い部分に粘土や砂が溜まっていること、などの様子から庭園の跡であることが分かります。出土した遺物の年代が一致することから、文献に記された「龍躍池」の一部を発見することができたと考えています。

庭園の様子を詳しく見てみましょう。調査区は東部が高く、西部に向かって傾斜しています。東部が陸、西部が池になります。現在は水がありませんが、当時は西部の低い部分に池水がたたてられていました。中央部には地形が平坦になる部分があり、ここが池の水際になります。南側は第2面の石垣によって削られたため段になっていますが、

北側は緩やかにカーブする池の水際を見ることができます。水際の斜面には砂や小石が残されています。庭石は水際に2個、東側の高まりに1個が据えてあります。石を据えるための穴が掘ってあり、庭石の向きにも注意していたことがわかります。東側の高い部分は1 m程の厚さで土を積んだところもあることから、庭園を造るときに盛り上げた可能性があります。また、調査区東部には柱穴も残されているので、建物があったことがわかります。

4. 出土した遺物

遺物には土器と瓦があります。土器には土師器はじきと呼ぶ素焼きすやの器のほか、黒く燻いぶした瓦器がき・釉薬とうきをかけた陶器とうき・中国製の磁器じきなどがあります。瓦には丸瓦まるがわら・平瓦ひらがわら・軒丸瓦のきまるがわら・軒平瓦のきひらがわらがあり、出土量が多いので瓦葺かわらぶきの建物があったと考えられます。

遺物の時期は遺構による違いはありますが、安土桃山時代から江戸時代のものが多くを占めています。

5. まとめ

今回の調査の大きな成果は『洛中洛外図屏風』に描かれた二条殿の一部を明らかにすることができたことです。京都市内の発掘調査で室町時代の庭園が発見された例は少なく、公家の屋敷に造られた庭園としては最初の調査例です。また、地元の学区名の由来となった遺跡を発見できたという意味でも貴重な成果といえるでしょう。

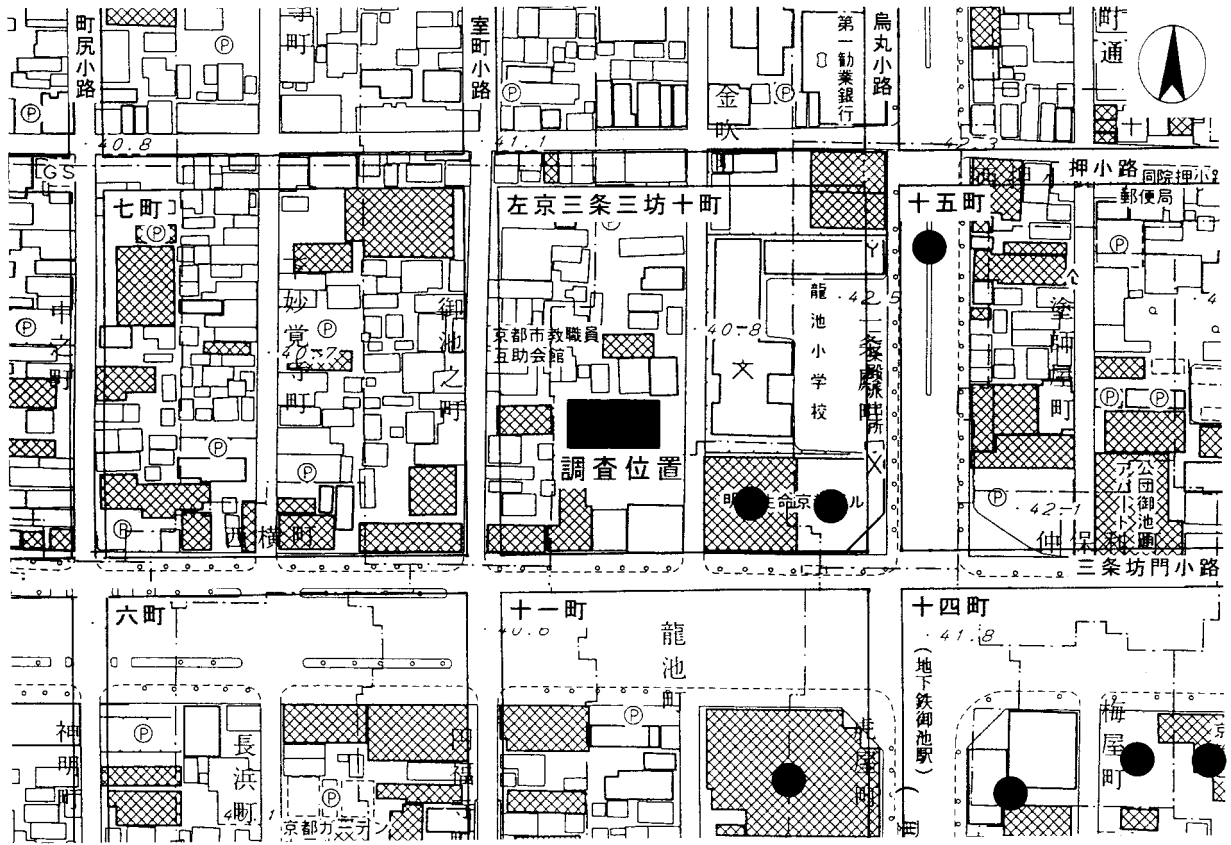


図1 調査地位置図 (1/2,500 ●は周辺での発掘調査)



図2 京都市街の推定復元図 (『中古京師内外地圖』の一部)

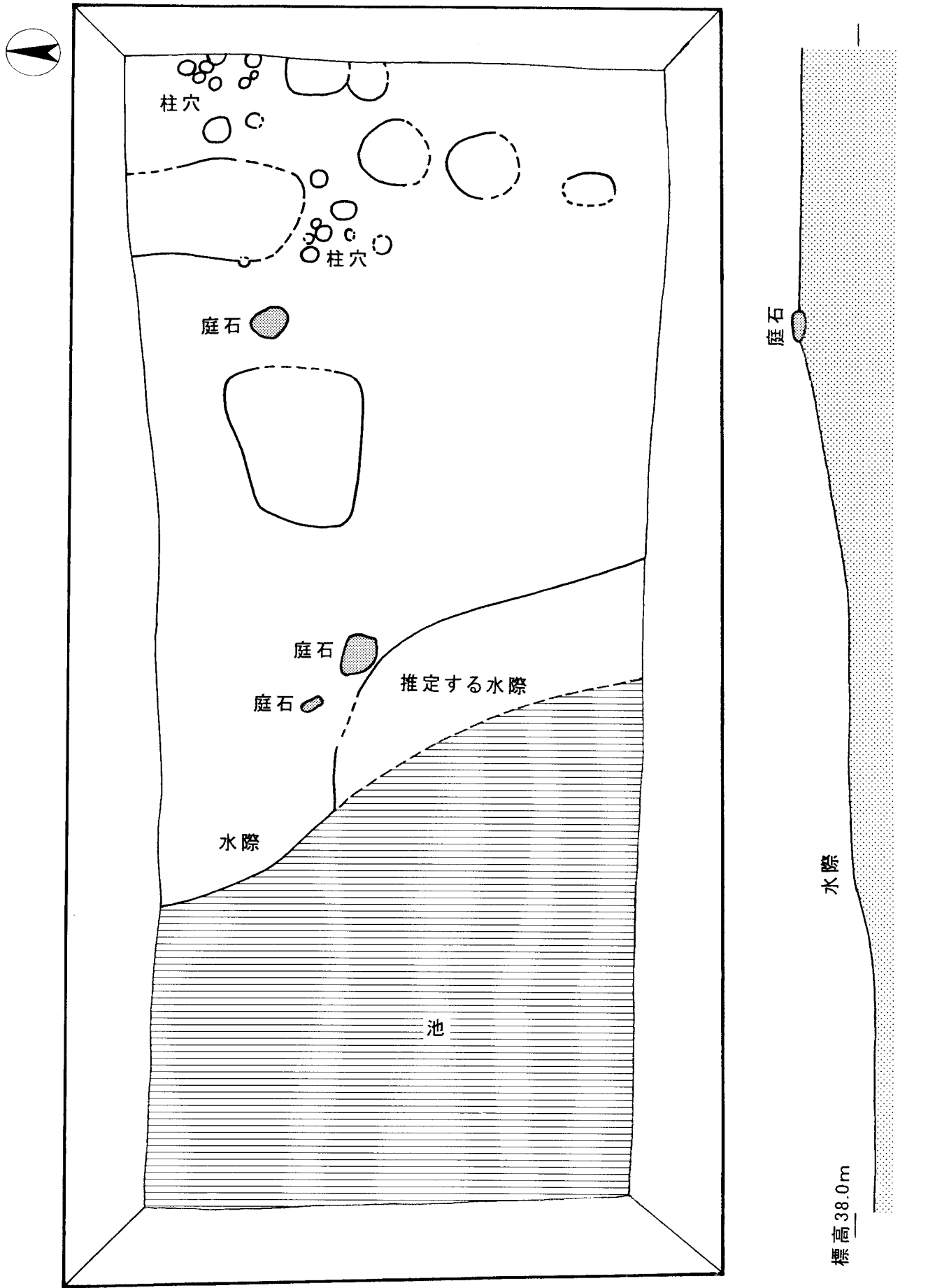


図3 第3面の遺構略図





写真3 第2面石垣（北から）

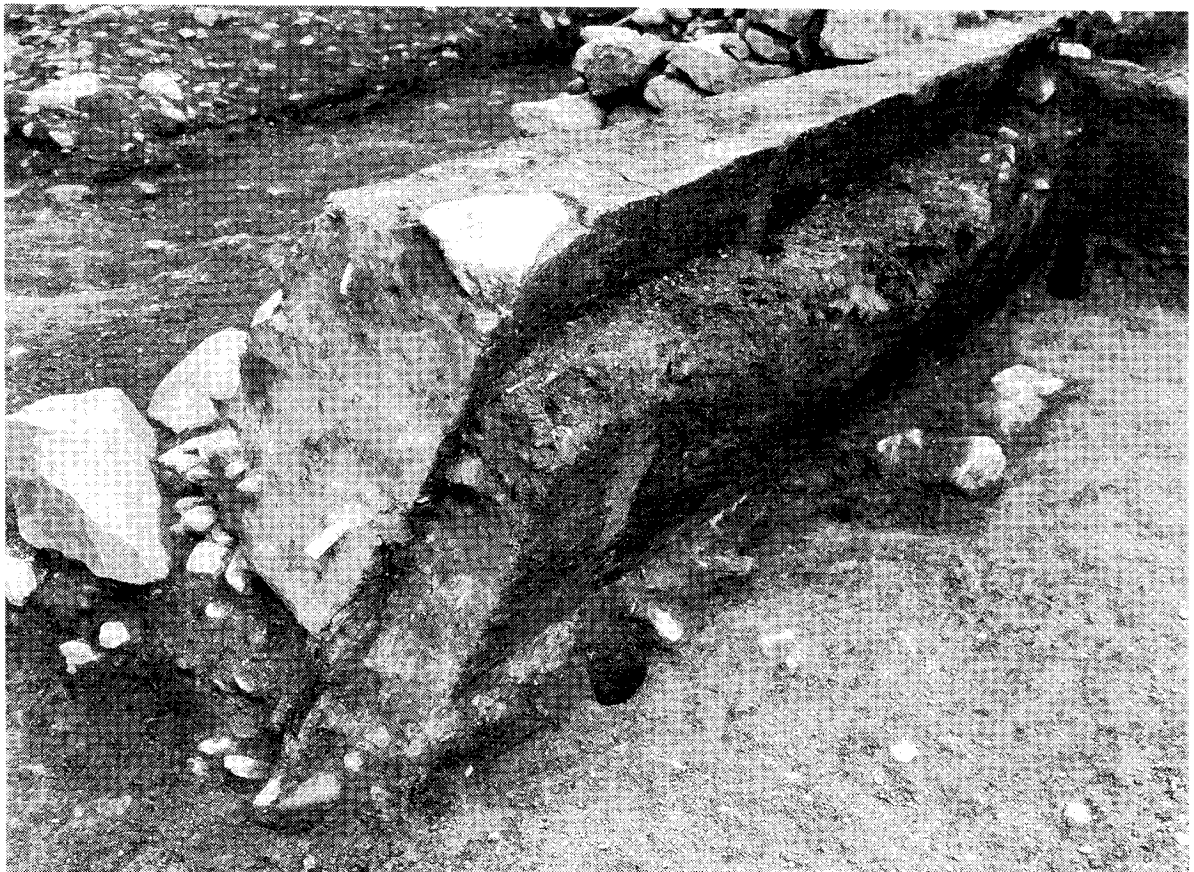


写真4 第2面地下式収納施設（地下蔵）（南西から）



写真1 第1面全景（東南東から）

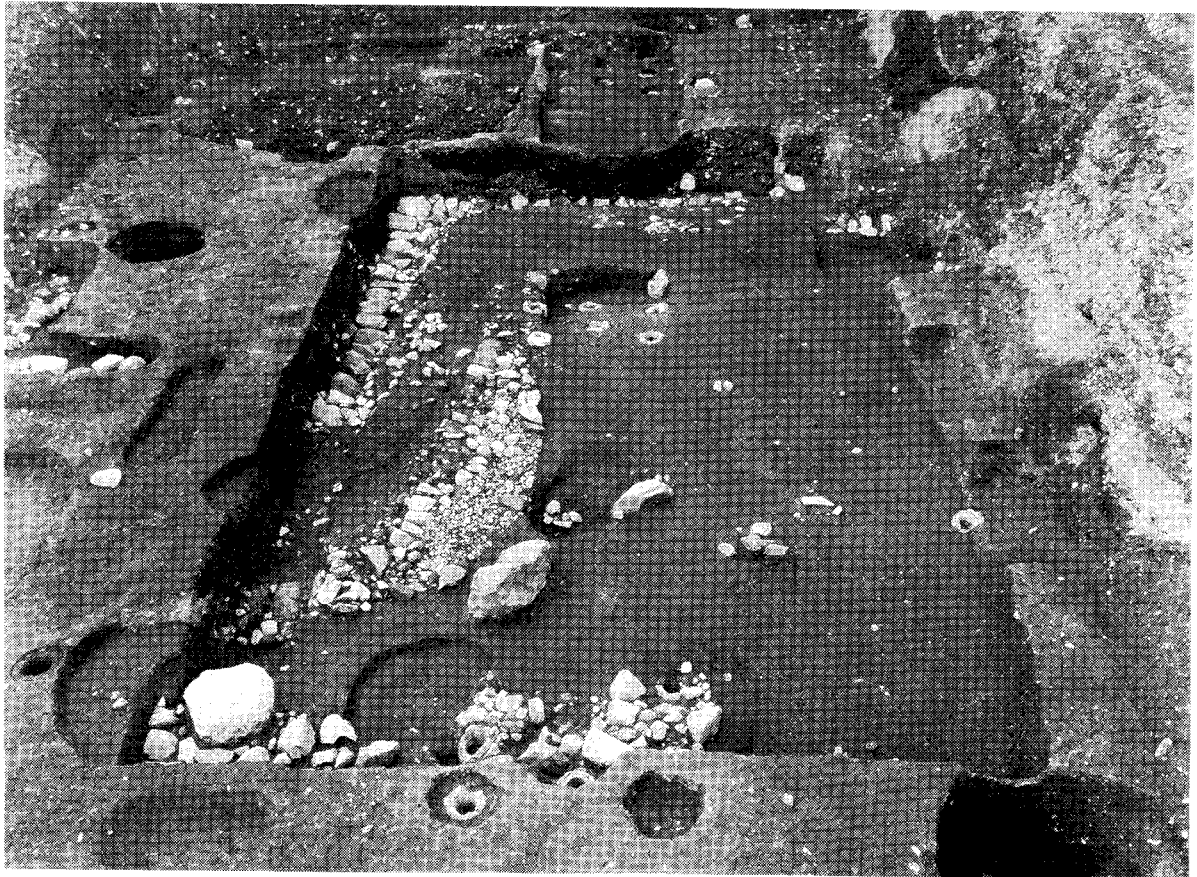


写真2 第1面土蔵（東から）

関係年表

時代	出来事	関連事項	
縄文時代	鳥丸御池遺跡の成立		
弥生時代			
古墳時代			
飛鳥時代			
奈良時代			
平安時代	延暦13年 (794) 平安京遷都	長岡京遷都 (784)	
	長元10年 (1037) 禎子内親王 (陽明門院) が皇后になる	はじめて平安宮内裏焼失 (960) 藤原道長が摂政になる (1016)	
	承暦4年 (1080) 陽明門院御所が焼失	平等院鳳凰堂建立 (1053) 後三条天皇即位 (1068) 白河上皇院政開始 (1086) 陽明門院死去 (1094)	
鎌倉時代	建久9年 (1198) 後鳥羽上皇院政開始	平氏滅亡 (1185)	
	建仁2年 (1202) 藤原範光が参議になる		
	承元3年 (1209) 後鳥羽上皇が押小路殿に移る		
	承久3年 (1221) 承久の乱・後鳥羽上皇が隠岐に流される		
	安貞2年 (1228) 九条道家が関白になる		
室町時代	仁治3年 (1242) 二条良実が関白となる	藤原範光出家 (1207)	
	元応元年 (1319) 後伏見院と花園院が納涼		
	応安元年 (1368) 庭園の整備 「龍躍池」と命名 この頃後光厳院が訪問		
	康暦2年 (1380) 二条良基が句会を開催 嘉慶2年 (1388) 二条良基が関白になる		
安土桃山時代	正長元年 (1428) 足利義教が訪問	建武の新政 (1333) 『筑玖波集』完成 (1357)	
	この頃『洛中洛外図屏風』に描かれる		北山殿 (金閣寺) 造営 (1397)
			応仁の乱 (1467~1477) 東山山荘 (銀閣寺) 造営 (1482)
			桶狭間の戦い (1560)
			山崎の戦い (1582) 豊臣秀吉が関白になる (1585)
			関ヶ原の戦い (1600)
江戸時代	永禄11年 (1568) 織田信長が足利義昭と上洛	明治維新 (1867)	
	天正4年 (1576) 二条家が立ち退き 織田信長が増改築		
	天正5年 (1577) 織田信長が二条屋敷に移る		
	天正7年 (1579) 織田信長が二条屋敷を誠仁親王に献上		
江戸時代	天正10年 (1582) 本能寺の変	この頃銀座商人が全盛	
	天正18年 (1590) この頃両替町通が開かれる		
	慶長5年 (1600) 京都に金座を設ける		
江戸時代	慶長13年 (1608) 伏見の銀座を京都に移す		
	寛永14年 (1637) 『洛中絵図』に「両かゑ丁」の記載		
江戸時代	元禄期 (1700頃)		
	元禄期 (1700頃)		
明治時代以降	明治3年 (1870) 金吹町の命名		
	明治9年 (1876) 現在の場所に龍池小学校が建設される		